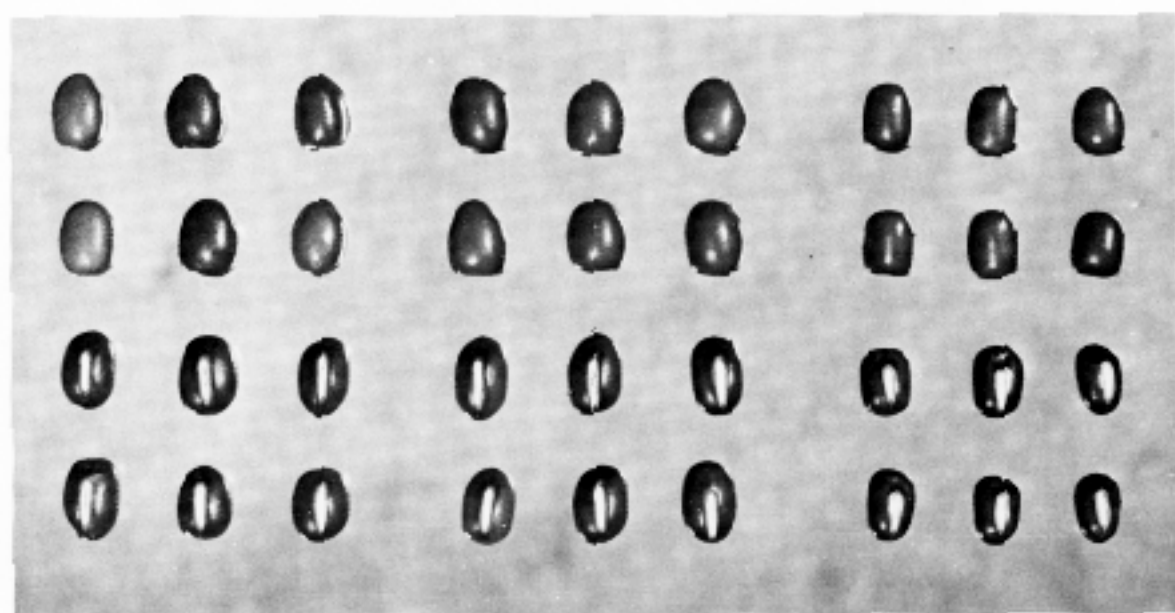


<あずき>

〔アカネダイナゴン〕



早生大粒1号 アカネダイナゴン 宝小豆



早生大粒1号

アカネダイナゴン

宝小豆

アカネダイナゴン

登録番号 あずき農林1号

登録年月 昭和49年7月

旧系統名 十育69号

育成場所 道立十勝農業試験場

1. 来 歴

「アカネダイナゴン」は、北海道立十勝農業試験場において、中生、大粒、良質品種の育成を目的として、昭和35年に「能登小豆」を母とし、「早生大粒1号」を父として人工交配を行ない、 F_1 は温室で養成し、 $F_1 \sim F_5$ は集団選抜、 F_6 以降は、個体ならびに系統選抜を行なって固定をはかり、昭和42～43年に「2028」の系統名で生産力検定予備試験を行なった。昭和44年からは、「十育69号」の系統名で生産力検定試験を行ない、昭和45年からは特性検定試験を行なうとともに地域適応性検定試験、奨励品種決定現地調査（育成系統比較現地試験）を行なって地方適否を確めたものである。

2. 形 態 的 特 性

莖色、葉色、花色などは、「早生大粒1号」に類似するが、花色は「早生大粒1号」より若干濃い黄色で、「暁大納言」とほぼ同じである。葉色は生育時期によって「早生大粒1号」より若干淡い緑色を示すこともある。草丈は「早生大粒1号」とほぼ同じで、「暁大納言」よりやや低い、分枝数は「早生大粒1号」よりやや多いが、着莢数は同じかやや多い。熟莢色は「早生大粒1号」と同様の灰白色で、太く短く、わずかに湾曲する。子実の形状は「早生大粒1号」とほぼ同じ鳥帽子型を呈し、「早生大粒1号」よりやや丸味を帯び豊満で、「暁大納言」に酷似する。

粒色は「早生大粒1号」と同様濃赤色を呈し、光沢があり、大きさはほぼ同じで、「暁大納言」よりわずかに小さい大粒種（大納言小豆）である。

3. 生 態 的 特 性

開花期は、「早生大粒1号」と同じか1日程度おそく、成熟期も1～2日程度おくれる中生種である。耐倒伏性は、「早生大粒1号」よりやや強。

収量性は育成地の十勝農業試験場の成績では、「早生大粒1号」にくらべ、3～33%多収で、5ヶ年平均で9%多収を示した。本系統は中生種であるが、「早生大粒1号」より登熟がすぐれており、昭和46年において特に多収を示したこと、あるいは低温処理などの成績をみると、不良気象条件において登熟がよく、特に上位節における粒の肥大が良好である。その上、不良気象条件下で一莢内粒数の減少が少ないため、収量の安定性が高い。また、耐倒伏性がやや強いことから、施肥量を増加することにより、より多収が期待できる。

1000粒重は「早生大粒1号」と同程度で「暁大納言」よりわずかに軽い。また粒揃いがよく、光沢があり、外観的品質は、「早生大粒1号」よりまさり、「暁大納言」とほぼ同じ大粒種（大納言小豆）

である。

種皮の厚さは「早生大粒1号」よりやや薄く、種皮歩合もわずかに低く、「暁大納言」とほぼ同じである。したがって製あん歩どまりは、「早生大粒1号」より高く、「暁大納言」並みと思われる。

4. 栽培適地

北海道の十勝地方、上川中・南部の「宝小豆」を栽培している地帯並びに道央、道南の畑作地帯に適する。

5. 奨励品種採用県

北海道（昭和49）

6. 栽培上の注意

「早生大粒1号」にほぼ準ずるが、「暁大納言」と同様耐倒伏性が強いので施肥量をやや多くすることにより多収が期待できる。

7. 育成地における試験成績

(1) 主要特性

品 種 名	葉			毛茸 の 形状	花 色	茎 色	草 丈	熟 期	莢		子 実			種 厚 さ	皮* 歩 合
	形	大 小	色						色	形 状	形 状	大 き さ	色		
アカネダイナゴン	円	大	緑	鈍	黄	緑	中	中 生	灰白	太く短かくわずかに湾曲	烏帽子	大	濃赤	0.0826	9.006
早生大粒1号	円	大	緑	鈍	黄	緑	中	中 生	灰白	太く短かくわずかに湾曲	烏帽子	大	濃赤	0.0872	9.406
暁大納言	円	大	緑	鈍	黄	緑	やや高	中生の晩	灰白	太く短かくわずかに湾曲	烏帽子	大	濃赤	0.0816	8.943
宝小豆	円	大	緑	鈍	黄	緑	やや高	中 生	褐	長く太さ中位やや湾曲	円筒	やや小	赤	0.0774	10.140

注 * 印は昭和47年度成績

(2) 生産力検定試験成績（昭和44～48年平均）

品 種 名	開花始 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期 (月日)	草丈 (cm)	主茎 節数 節	分枝数 本/株	莢数 コ/株	莢の 太さ (mm)	一莢 粒数	10a当たり(kg)				子実 重歩 合 (%)	1000 粒重 (g)	屑豆 歩合 (%)	品質
										総重	子実 重	早生 大粒 比	宝比				
アカネダイナゴン	7.28	0.5	9.21	41	12.3	3.8	47	5.01	4.07	478	293	109	107	61	184	5.2	1下
早生大粒1号	26	1.0	19	41	11.7	3.6	43	5.06	4.24	427	269	100	98	63	184	7.4	2
暁大納言	29	0.4	22	46	12.4	4.6	46	5.12	4.29	479	296	110	108	62	191	6.5	1下
宝小豆	29	0.7	18	48	12.4	3.6	43	5.45	6.66	443	274	102	100	62	127	7.1	2

注 1) 倒伏程度の評価は次による。

0:無 1:少 2:やや少 3:中 4:やや多 5:多

2) 成熟期は昭和46年が未成熟のため、4カ年平均である。

(3) 栽植密度、施肥量、播種期に対する特性検定試験

ア 栽培概要

標準区：10a 当たり施肥量(kg) N:2.4, P₂O₅:9.0, K₂O:4.8, MgO:4.2

ただし昭和48年は、N:3.0, P₂O₅:12.6, K₂O:7.2, MgO:3.6

栽植密度 60×20cm 2本立

倍肥区：4要素とも倍量施用 60×20cm 2本立

密植区：標準肥 60×10cm 2本立

疎植倍肥区：4要素とも倍量施用 60×30cm 2本立

晩播区：標準区より15日遅播 60×20cm 2本立

イ 試験成績（昭和45～48年，4カ年平均，ただし晩播区は昭和45，46年2カ年平均）

処 理	品 種 名	開花始 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期 (月日)	草 丈 (cm)	主 茎 節 数	分枝数 本/株	莢 数 コ/株	一 莢 粒 数	10 a 当 たり				1000 粒 重 (g)	品 質
										総 重 (kg)	子実重 (kg)	早生大粒 比 (%)	宝 比 (%)		
標 準 区	アカネダイナゴン	7.27	0.5	9.19	40	11.9	3.8	47	4.16	464	297	112	115	179	1下
	早生大粒1号	26	0.8	17	40	11.5	3.3	44	4.08	421	265	100	102	173	2上
	晩大納言	28	0.8	20	47	13.0	4.5	47	4.27	485	307	116	119	185	1下
	宝小豆	29	1.1	15	48	12.7	3.5	43	6.12	421	259	98	100	124	2上
倍 肥 区	アカネダイナゴン	7.27	0.9	9.20	46	12.3	3.7	50	4.06	510	316	111	110	183	1下
	早生大粒1号	26	1.3	19	45	12.6	4.0	45	4.01	472	284	100	99	179	2上
	晩大納言	29	1.1	21	52	13.1	4.5	45	4.41	515	308	108	108	189	1
	宝小豆	28	1.4	16	54	13.0	3.8	47	6.76	489	286	101	100	126	2上
密 植 区	アカネダイナゴン	7.27	0.3	9.18	40	10.5	2.4	27	3.97	484	308	107	97	180	1下
	早生大粒1号	26	0.4	16	38	10.1	1.8	27	3.93	455	288	100	91	182	2上
	晩大納言	28	0.5	19	45	11.4	3.0	22	4.36	535	334	116	105	184	1下
	宝小豆	28	1.4	14	47	11.1	1.5	25	6.37	513	318	110	100	129	2上
疎 植 倍 肥 区	アカネダイナゴン	7.27	0.8	9.21	45	13.7	4.8	67	4.11	441	292	116	108	182	1下
	早生大粒1号	26	1.0	20	45	13.0	4.5	57	4.10	412	252	100	93	181	2上
	晩大納言	29	0.9	22	51	13.9	5.2	64	4.46	487	304	121	113	187	1下
	宝小豆	27	1.1	18	53	14.0	4.4	58	6.37	439	270	107	100	125	2上
晩 播 区	アカネダイナゴン	8. 5	0	9.30	31	11.0	2.5	31	4.07	329	205	115	121	187	2上
	早生大粒1号	4	0	28	30	11.2	2.2	29	4.11	292	179	100	106	190	2上
	晩大納言	6	0	10. 3	36	11.2	3.4	32	4.50	328	193	108	114	180	2上
	宝小豆	4	0	9.27	33	11.0	1.6	28	6.17	269	169	94	100	137	2

注 成熟期は昭和46年末成熟であった。

8. 配布先における試験成績

(1) 道立各農試における試験成績（育成系統地域適応性検定試験）

場 所	品 種 名	開花始 (月日)	成熟期 (月日)	草 丈 (cm)	分枝数 本/株	莢 数 コ/株	10 a 当 たり				1000 粒 重 (g)	屑 豆 歩 合 (%)	試 験 年 次
							総 重 (kg)	子実重 (kg)	早生大粒 比 (%)	宝 比 (%)			
北 見 農 試	アカネダイナゴン	7.28	9.22	67	4.4	47	630	347	110	118	197	4.2	昭47，48
	早生大粒1号	28	21	63	4.2	43	589	315	100	108	195	6.1	"
	晩大納言	8. 5	10. 3	87	5.8	44	737	340	111	113	208	4.9	48
	宝小豆	7.28	9.17	70	4.3	44	535	293	93	100	120	5.3	47，48
上 川 農 試	アカネダイナゴン	7.28	9.25	65	4.5	49	700	328	115	116	175	5.4	昭45～48
	早生大粒1号	26	22	55	4.5	45	590	286	100	101	170	6.0	"
	晩大納言	28	27	69	5.1	46	723	304	106	107	180	5.8	"
	宝小豆	26	15	56	4.7	46	525	283	99	100	113	3.7	"
原 原 種 農 場	アカネダイナゴン	7.24	9.14	34	4.2	36	423	247	112	127	174	4.0	昭45～48
	早生大粒1号	23	12	34	3.8	32	375	220	100	113	172	4.5	"
	晩大納言	24	14	39	3.9	35	430	253	115	130	168	3.4	"
	宝小豆	23	8	38	3.4	33	322	195	89	100	106	3.5	"
中 央 農 試	アカネダイナゴン	7.28	9.22	23	2.1	27	257	158	93	125	169	2.4	昭45～47
	早生大粒1号	29	20	23	2.3	28	251	170	100	135	160	3.8	"
	晩大納言	30	23	26	2.9	28	269	171	101	136	168	4.0	"
	宝小豆	29	17	23	1.8	22	199	126	74	100	107	6.4	"

(2) 奨励品種決定現地調査の支庁、年次別収量一覧

(10 a 当たり)

支庁別	年次	場所数	ア カ ネ ダ イ ナ ゴ ン				早生大粒 1号実重	晩大納言 子実重	宝小豆 子実重	実施場所
			子実重 kg	早生大粒 1号比 %	晩大納言 比 %	宝小豆 比 %				
十勝	昭45	4	248	117	109	102	212	227	243	帯広, 更別, 本別, 忠類, 足寄, 鹿追, 池田, 清水, 士幌
	47	7	271	126	—	103	215	—	264	
	48	5	306	112	113	112	274	272	274	
	平均	16	259	118	—	106	219	—	245	
	2	9	280	114	111	108	216	252	260	
網走	47	4	255	124	—	102	205	—	250	網走, 北見, 美幌, 端野
	48	4	249	111	97	93	225	256	268	
	平均	8	252	117	—	97	215	—	259	
上川	45	2	270	138	146	159	195	185	170	名寄, 上富良野, 旭 川
	46	1	215	98	105	108	220	205	200	
	47	1	150	130	83	115	115	180	130	
	48	2	237	117	97	103	203	244	229	
	平均	6	218	119	107	120	183	204	182	
空知	45	4	204	113	101	109	180	202	188	長沼, 由仁, 栗山, 芦別, 深川
	46	4	213	119	112	97	179	191	219	
	47	5	270	117	106	101	231	255	267	
	48	3	201	116	108	106	173	186	189	
	平均	16	226	116	107	103	194	211	220	
石狩	45	1	233	142	123	120	164	190	194	恵庭(千歳)
	47	1	253	175	130	93	145	195	273	
	48	1	173	120	104	137	144	167	126	
	平均	3	220	146	120	111	151	184	198	
後志	45	2	210	130	121	127	161	173	165	共和 蘭越
	46	2	153	128	94	94	120	163	163	
	47	2	207	113	86	100	183	242	207	
	48	2	204	106	100	113	193	204	181	
	平均	8	193	118	99	108	164	195	179	
日高	45	1	339	104	99	129	326	343	262	平取 新冠
	46	1	280	152	98	173	184	287	162	
	47	1	278	118	90	108	236	309	257	
	48	1	267	139	112	100	192	239	243	
	平均	4	291	134	99	126	235	295	231	
胆振	45	1	278	131	103	192	212	269	145	伊達, 洞爺, 穂別, 鶴川
	46	1	343	122	111	124	281	309	276	
	47	3	288	119	128	104	243	225	276	
	48	2	292	—	126	125	—	232	234	
	平均	6	279	120	119	119	232	234	235	
渡島 檜山	46	2	215	136	115	133	158	187	162	八雲, 北檜山, 厚沢 部
	47	2	189	135	135	115	140	194	164	
	48	2	184	93	94	121	197	196	152	
	平均	6	196	118	102	123	166	192	159	

注 平均1:「早生大粒1号」の供試場所の平均値

平均2:「晩大納言」

〃

9. 育成従事者

交配 ~ F₇

野村信史

F₈ ~ F₁₂

後木利三

F₆ ~ F₁₄

佐藤久泰

F₁₂ ~ F₁₄, 低温実験 成河智明